

毎年、9月に入っても厳しい残暑が続きますが、朝晩は少しずつ涼しくなってきます。8月の猛暑を乗り切った芝生も根が生え変わる時期になります。栄養をしっかりと与え、元気な芝生を作っていきましょう

ホームページアドレス
<http://www.tomo-green.com/>

第95号



グリーンメカ・マリソパワー・光合成細菌

芝の呼吸過多による糖消費と土壌菌数の回復に...

残暑の厳しい9月は高温による芝の呼吸量が増加し、糖含有量は減少します。また、10月に入るとベントの生育期となり、糖の消費量も増大します。

糖が少なくなると特に根に影響を与えるので、グリーンメカでしっかり補給していきましょう。

7月、8月の高温ストレスから、少しでも早くベントを回復させるために、土壌中の硫化水素など根に直接影響を与える有害ガスを軽減させましょう。光合成細菌とマリソパワーを組み合わせることによって、嫌気性の土壌(排水の悪いどぶ臭い土壌)を改善し好気性の有用菌の定着を目指します。

使用量：グリーンメカ 5~10ml/m² マリソパワー 2~4ml/m² 光合成細菌 1~10ml/m² 0.5~1.0L/m² 散布



サッチ・リムーバー

サッチ層の除去には...

9月の更新作業時に光合成細菌+サッチ・リムーバーで、グリーンのサッチ層を軽減しましょう。

他の微生物由来のサッチ分解剤とは異なり、酵素製剤なので土壌中でも安定して働きます(又農薬との混用もOKです)。分解されたサッチは、糖類やチッソ源となり、植物や他の微生物のエサとして再利用されます。

使用量：1~2g/m² 0.5L/m² 散布 使用回数：月1~2回



プライマーセレクト・アクアダクト

残暑に備えて均一な水分分布を...

残暑の厳しい9月は、油断するとすぐにドライスポットが出てしまいます。

プライマーセレクトを処理することによって、均一な水分分布を目指し、乾燥害からグリーンを守りましょう。ドライスポット発生後は、治療効果の高いアクアダクトを処理して、すばやく回復させましょう。

使用量：1~2ml/m² 200ml~1L/m² 散布 散布回数：プライマーは1ヶ月~1ヶ月半に1回、アクアダクトは随時使用



ガードワン水和剤・エキソジノン乳剤

害虫多発生時のローテーション散布の一剤として...

9月、10月はスジキリヨトウ・クシナシスジキリヨトウ幼虫の発生をはじめ、タマナヤガ幼虫、ツトガ幼虫、コガネムシ幼虫、シバオサゾウムシ幼・成虫と多種の害虫が活発に活動する時期です。

殺虫剤の散布回数が増える時期ですから、薬剤の耐性予防としてローテーション散布を行ないましょう。

ガードワン水和剤は、ヨトウなどの鱗翅目害虫の幼虫令期が幅広く混在するこの時期に安定した効果を発揮します。

またエキソジノン乳剤は土壌浸透型殺虫剤ですので、特にシバツトガに対しては、虫体を覆うツトに薬液がしみわたり、確実な防除効果を発揮します。

使用量：ガードワン水和剤4000倍 0.3L/m²、エキソジノン乳剤 1000~2000倍 0.3~1L/m²



カラーマーカー[®]・L

除草剤散布時の識別剤として...

食用色素を成分としてありますので、安心してお使いいただけます。

除草剤散布時の着色識別剤(カラーマーカー)として利用していただけます。

使用量：3000~5000倍 (倍率は芝生や主剤の色合いにより自由に加減下さい)

(従来の投げ込む粉体を液状にしましたので、希釈が自由で価格も安くなりました)

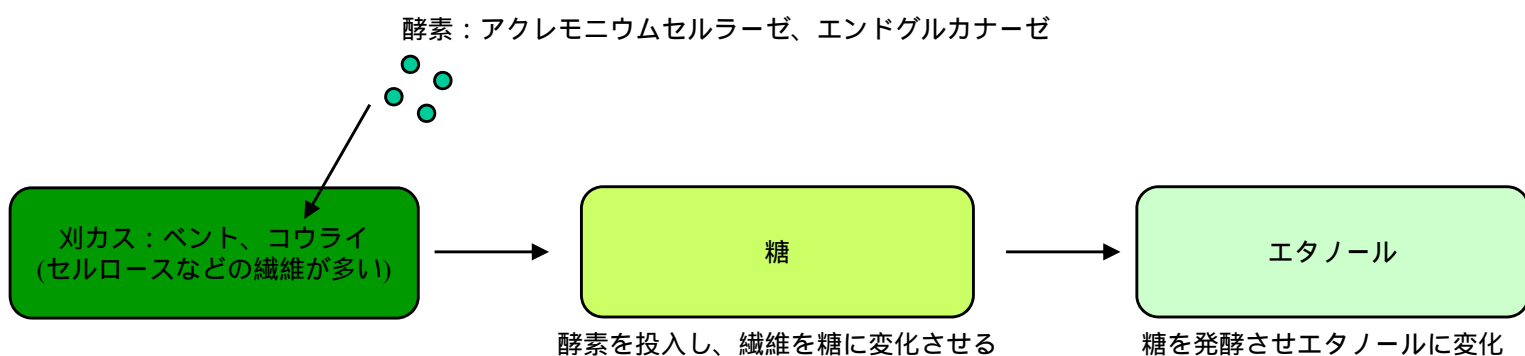
ゴルフ場の芝でバイオエタノール!!

今回は、ゴルフ場で問題になっている刈カスから、バイオエタノールを製造する新技術が開発されたことを紹介します。

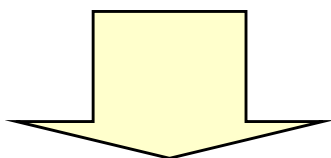
岐阜大学の高見澤一裕教授(環境微生物工学)が開発したシステムでは、1ヶ所のゴルフ場から集められた刈カスで、車2台の1年分の燃料を生産できる試算となっています。

こういった仕組みで刈カスが燃料に変化するのが、大まかに説明してみましょう。

2008年8月26日付け毎日新聞より



数十種類の酵素の中から2種類の酵素を選抜し、効率的に糖に変換するシステムを開発した結果、芝1gから約0.15gのエタノールを生産することが可能。



18ホールのゴルフ場で1年間に刈る芝は乾燥重量で約18トンとした場合、試算ではガソリン約2300ℓに相当する2.7トン以上のエタノールが生産可能となる。